

## 学力向上を図るための全体計画

### 児童の実態

- ・明るく元気
- ・素直で優しい
- ・学力の個人差が大きい
- ・自分の考えを表現することが苦手な児童が目立つ

### 本校の教育目標

- 正しく ・自分の考えをもち、表現できる子ども
- ・創意工夫して、解決に努める子ども
- 強く ・最後までやりとげる意志の強い子ども
- ・健康づくりに取り組む子ども
- やさしく ・相手の立場にたって考えることができる子ども
- ・互いに助け合い、豊かな心をもつ子ども

### 社会の要請

憲法  
教育基本法  
学習指導要領  
都の教育目標  
区の教育目標

等

### 学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- (2) 個性・能力に応じた指導を工夫し、学習意欲の向上を図る。
- (3) 発達段階に応じて家庭学習を充実させ、学習習慣の確立を図る。
- (4) 多摩川の自然や地域の文化、人材の活用などにより活動を工夫し、習得・活用・探求型の学習の充実を図る。
- (5) 全教育活動を通し、言語活動を重視し、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- (6) 児童理解に基づく計画的な授業の実践を図る。

### 各教科の指導の重点

- ・地域の自然や文化を大切にする体験的な学習等、多様な学習活動の工夫により、習得・活用・探求型の学習の充実を図る。
- ・児童理解に基づく授業改善推進プランを活用し、基礎的・基本的な内容を十分に習得させると共に学習意欲の向上を図る。
- ・既習事項を反復することで基礎基本の習熟を図る。
- ・「聞く」「話す」活動を取り入れた指導計画を作成し言語活動の充実を図る。

### 本校の「学力向上のための手だて」

- ・「楽しく外国語活動に取り組み、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」という主題で校内研究を行い、外国語活動を中心として、児童が新しいことや分からないことをすすんで理解したい、自分の思いを伝えたいと感ずることができる学習活動の充実を図る。
- ・全校一斉に、週2回朝学習の時間を設定し、漢字や計算の基礎的な力をつけさせる。
- ・保護者の協力も得て読書に親しむ環境をつくり、読むことを通して国語の基礎的・基本的な力をつけさせ読書の楽しさを味わわせる。
- ・算数の学習において習熟度別指導を行い、各学年で必ず習得させる基礎的・基本的な内容を個に応じて学ぶことができるような学習環境を整える。
- ・放課後や土曜日・夏季休業中の補習に全校体制で取り組み、基礎学力の充実を図る。
- ・家庭と連携してよりよい学習・生活習慣を身につけさせる。

### 道徳教育の重点

- ・道徳教育推進教師を中心にして道徳の授業を充実させ、各教科、特別活動と関連をもたせながら、児童一人一人の道徳性を養う。
- ・道徳教育の全体計画に規範意識向上プログラムを位置づけるとともに、人間尊重の精神の育成に努め、自他の人格を尊重し互いに信頼し協力して助け合う態度を育てる。
- ・道徳授業地区公開講座を学校公開日に行い、地域や家庭と連携した道徳教育の実現を図る。

**総合的な学習の時間の指導の重点**

- ・児童の興味・関心を基に、多摩川の自然や文化に目を向けさせ、体験的な活動を重視しながら、環境問題に進んで取り組む児童を育成する。
- ・パソコン等の情報機器に慣れ親しみ、適切に活用して、学習活動を充実させる。
- ・ものづくり学習・日本の伝統文化学習等で地域人材を活用した体験学習を展開し、個性と創造力を伸ばす。

**特別活動の指導の重点**

- 自主的・実践的に取り組む中で、自ら課題を見だし、その解決方法などについての合意形成を図り、協力して目標達成していく自発的・自治的な活動を行い、以下の点を育成する。
  - ・集団の中において、課題の発見、実践、振り返りなでの一連の活動を通して、よりよい人間関係を形成していく資質・能力を育成する。
  - ・様々な問題を主体的に解決しながらよりよいものにしていくとする社会参画の資質・能力を育成する。

**生活指導の重点**

- ・毎月の生活目標を各学年、学級で具現化すると共に看護当番が中心となって、指導の徹底を図る。
- ・学期毎に担任と児童の面談を行い、児童理解を深める。
- ・避難訓練、セーフティ教室を実施し、安全に対する児童の実践的態度を養う。
- ・「子どもの心サポート月間」の調査結果なども活用しながら、必要に応じてケース会議を開き、全校態勢でいじめや不登校児童の問題の解決を図る。

**進路指導の重点**

- ・家庭や地域社会と連携協力し、一人一人の児童のよさや可能性の発見に努める。また、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、個々が共通して当面する課題を考察する活動を通して、よりよく改善しようとする資質・能力を育成する。
- ・中学校との連携を図り、情報交換などを密接に行い、特別活動や授業交流活動等を通して、中学進学に対する希望や意欲をもたせる。

**本校の授業改善に向けた視点**

※プランの実効性を高める校長の方略

- ・年5回の研修や3回の研究授業を通して教員の授業力向上を図る。
- ・自己申告時や日常の授業観察を通して指導助言を行う。
- ・地域人材・環境を活用した体験的学習活動の充実を図る。

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>言語活動を重視し、基礎的基本的な知識・理解の習得と思考力・判断力・表現力を育成する。そのために、繰り返し学習や習熟度別学習、問題解決学習などの指導法を改善する。</p> <p>児童理解に基づく教材・教具等の工夫や整備を行い、学習環境の充実を図っていく。</p>	<p>授業時数を確保できる教育計画を立て、実施する。</p> <p>「朝学習」を週3回実施し、読書・漢字計算練習を通して基礎学力の定着を図る。</p> <p>放課後は3～6年で週1回の「多摩小タイム」、土曜日は年間6回の土曜日の課外授業、夏季休業中は2日間の夏季学習教室を行い、補習を充実させる。</p>	<p>校内研究授業を実施し、教員の専門性を高め、資質の向上を目指していく。</p> <p>若手教員による授業研究会を学期に1回程度ずつ実施し授業力の向上を図る。</p> <p>0JT研修を計画的に実施し、教員相互の教え合い学び合いを促す。</p>	<p>年間指導計画を基礎として、観点別評価を加味した評価規準の設定並びに評価の改善に努める。</p> <p>授業参観や道徳授業地区公開講座等で保護者等からアンケート（評価）を回収し、改善に生かしていく。</p> <p>学校関係者評価を行い、指導方法について保護者や地域の方の意見を参考にし、指導法の改善を図る。</p>	<p>児童の家庭での過ごし方について実態調査を行い、その結果を基に、家庭学習や規則正しい生活習慣等が定着するよう、家庭と連携を深めていく。</p> <p>各教科や総合的な学習の時間において、地域の人材・環境を生かした教育活動を行い、地域から学ぼうとする心情や地域を愛する心を養う。</p>

# 国語科 授業改善プラン

	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
昨年度の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低学年や中学年では、発表の場を多く設定したことで、自分が感じたことや考えたことを進んで友達に伝えられる児童が増えた。高学年は、話を自分の考えと比べながら相手の話を聞くことで、話し合いが深まるような質問や意見が出るようになった。</li> <li>高学年は、書く対象を明確化して作文を書かせることで、論理的に表現できる児童が増えてきた。</li> <li>説明的文章では、段落相互の関係を読み取ることや要旨を捉えることができてきた。</li> <li>物語文では、叙述を基に登場人物の心情を読み取ることができるようになってきている。</li> <li>「書くってたのしいね」を活用することにより、主語、述語の対応、書く事からの整理、句読点や「」などの使い方を意識できるようになってきている。</li> <li>家庭学習で新出漢字の学習を徹底した。一文字ずつではなく、熟語として覚えたり、自分の苦手なところを何度も繰り返したりするなど、個々にあった学習方法を取り入れるようにした。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低学年は、話の中心を聞き取ることや考えをまとめて話すことに課題が残る。特に、話を最後まで聞くことに課題が残る。高学年は、話の組み立て方に課題残り、自分の思いはあっても、的確に話すまでに時間がかかる。</li> <li>低学年や中学年は書こうとすることの中心を明確にしたり、様子や考えを詳しく書いたりすることに個人差がある。</li> <li>大事なことを落とさずに聞くことができていないことや、最後まで聞かずに自分の判断で行動してしまうことが目立つ。</li> <li>全体的に語彙力の少なさに課題が残る。低学年から、促音・拗音、助詞の使い方の定着を図ることが必要。</li> </ul>				
分析	国語への興味・関心は昨年度とほぼ同様のポイントを示している。6年生については、3.5ポイント上昇した。	話の内容を聞き取る力はついてきているが、5年生については、昨年度と比べると1ポイント下回った。	5・6年生はともに、昨年度と比べて上昇したが、4年生は下回った。	読み取る力はどの学年も高まっている。昨年度と比べて2～5ポイント上昇した。	文の構成についての理解は昨年度より高まっているが、漢字の定着については、ばらつきがある。
課題	さらに意欲が高まるように、教材開発や授業での発問の工夫を行う。	話し手の意図や事柄の中心を捉えながら聞き、メモを取ることが課題として残る。	4学年では、事柄の中心を考え、段落を意識して書くことに課題が残った。	資料と文章を関連づけながら読むことには課題が残る。	漢字の読み書きと4年生のローマ字の定着に課題が残る。
改善策	<p>(低学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が興味・関心をもつような授業の導入、教材開発を行っていく。</li> <li>自分が感じたことや考えたことを順序よくはっきり話せるようにするために、事柄の中心をはっきりさせる。また、大事なことを落とさないで聞けるように、話の聞き方の基本(具体的項目)を意識させ、繰り返し指導していく。</li> <li>文章は主語、述語を対応させて書かせる。書く事柄を順序立てて書けるようにする。句読点や「」などの使い方を繰り返し指導する。特に、書く単元に取り組む度に「書くってたのしいね」を活用し、文法的指導を行う。</li> <li>毎週、図書室で読書をする時間を確保する。また、教師による読み聞かせを行い、読書に親しませる。</li> <li>書かれていることの順序や場面の様子などに注意して、想像を広げながら読むことに取り組む。友達との交流を通して、読み取りの力も育てていく。</li> <li>新しく習った文字や漢字の字形や筆順の指導を徹底し、読み書きの定着を図る。</li> </ul> <p>(中学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを分かりやすく話すために、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話せるように指導する。また、話の中心に気を付けて話したり聞いたりすることを意識させる。</li> <li>書こうとすることの中心を明確にし、事柄を整理しながら文章を書くことに取り組ませていく。</li> <li>学年相応の図書を推薦したり、読書の時間を十分確保したりして、楽しみながら読む力を身に付けさせる。</li> <li>新出、既習漢字の反復練習と小テストを通して、漢字の書き取りの定着を図る。国語辞典や漢字辞典を活用して、語彙を習得させていく。</li> <li>他教科でも、パソコンの文字入力などでローマ字を活用し、慣れ親しみながら習得させていく。</li> <li>発表の場を多く設定し、自分が感じたことや考えたことをすすんで友達に伝える力を身に付けさせる。</li> <li>話し合いの時間を多く設け、互いの意見を交流し、考えを深めていけるようにする。</li> <li>教材開発や授業での発問の工夫を行い、分かる楽しさを味わうことのできる工夫を行っていく。</li> </ul> <p>(高学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことや自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫させる。スピーチを行い、自信をもって話すことができるようにする。友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、話し合いが深まるような質問や意見が出るよう意図的に働きかける。</li> <li>書く対象を明確にして作文させ、自分の考えが伝わるように論理的に表現できるようにする。より内容の理解を深められるようにする。</li> <li>学年相応の図書を推薦したり、他教科での学習に関連する本を紹介したりするなどして、読書の習慣を身に付けさせる。</li> <li>資料と文章を関連づけながら読むことを指導する。小見出しを付けるなどして文章全体の構成や要旨をつかめるようにする。</li> <li>物語文は、登場人物の心情を叙述から読み取るようにする。優れた言葉や文に触れ、語彙力を高めさせていく。</li> <li>新出、既習漢字のくり返し学習と小テストを通して、漢字の書き取りの定着を図る。国語辞典を活用し、語彙を習得させていく。</li> </ul>				

# 社会科 授業改善プラン

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
昨年度の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;</p> <p><b>中学年</b>・フラッシュカード等を使用することにより地図記号に興味をもたせることができ、楽しく学習をすすめられた。          ・商店街や工場などの現地調査でメモしたことをもとにして発表したことにより、理解が深まった。          ・地域の見学などの体験的学習に力を入れたことで、地域の施設を含めた学校の回りの様子を把握することができた。</p> <p><b>高学年</b>・資料から事実を読み取り、その事実から自分の考えを繰り返し書かせたり、発表させたりする練習を授業の中で取り入れた結果、事象の理由や自身の考察について、表現する力がついてきている。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p><b>中学年</b>・地図記号を活用する場面が少なく、十分に定着できていない。また、地図から地形や施設の様子を読み取り、その背景について考察し、表現する力が低い。          ・資料を比べたり、そこから分かることを考えたりする力が十分に定着できていない。</p> <p><b>高学年</b>・地図の見方や都道府県に関する知識や理解が十分ではない。          ・他の地域や国との関わりを身近なものとしてとらえることができていない。          ・単元をまとめるツールが少ない。</p>			
分析	<p>社会的事象に対する関心は高い。自分の生活と密接に結びついていないと子どもたちが感じてしまう単元（生産や販売、災害・事故防止、情報、領土問題など）でも、徐々に関心が高まってきている。</p>	<p>資料から分かったことを挙げるができるようになってきた。設問で与えられた情報を利用して、考えをまとめることや、複数の資料を関連付けて判断することが伸びてきている。また、新聞づくりなどの多様な表現活動によって、表現する力は少しずつ伸びてきている。</p>	<p>複数の資料を組み合わせて社会的事象を読み取ることもできるようになってきたが、単元によってばらつきが見られる。資料から事象の変化を読み取ることが課題である。</p>	<p>どの学年もポイントは上がっているが、単元によって定着にばらつきがある。4年は地図記号、5年は都道府県、6年は貿易や国際関係に関する知識や理解が深まっていない。実際に体験したことはよく理解できているため、見学、体験、まとめ、発表という流れで学習すると定着しやすい。</p>
課題	<p>自分の暮らしに対して、気になることや疑問などの視点をもつことができるように支援していく必要がある。その視点を基に、自分の生活と関連付けた例えや説明をしたり、他の地域や昔の生活の様子を比べたりするなど、自分の問題として興味をひき、関心を高めていけるようにしていくことが課題である。ニュースや新聞等を見たときに、その中の情報に疑問を抱いたり、より身近なこととして感じたりすることに課題がある。</p>	<p>授業の中で、教科書や副読本、資料集などのグラフ・表・写真・絵・地図・年表などから読み取れることは何かを演習させる時間をとることと、複数の資料を提示して、多面的に物事を捉えさせる指導をすることが課題である。また、資料の事実から、自分の考えをもつことも必要である。地図記号や方位の知識をもとに、実際の調査場面に即して判断したり、店の利用状況について、地図をもとにその背景を考察し、表現したりすることに課題がある。</p>	<p>資料を読み取る力をより高めていくために、複数の資料を組み合わせた情報の分析、根拠ある理由をもって正しく判断する力を付けさせる指導の充実を図っていくことが課題である。また、簡単な社会科の用語に対する知識不足が、資料を正しく読み取ることを妨げている。児童が、学習した用語に触れる機会を多く設けられるようにしていく必要がある。</p>	<p>実際に体験していないことや身近でないことを理解することが難しく、それらの知識や理解を深めていくことが今後の課題である。適切な資料を活用したり、できる体験だけでも、なるべく多く授業に取り入れながら、児童が少しでも身近に感じられるように工夫していく必要がある。また、地図記号や都道府県に関しては、日常的に地図を活用し、繰り返し触れさせて、定着させていく必要がある。</p>
改善策	<p>以下の項目について継続的な指導をしていく必要がある。</p> <p><b>中学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎資料集や地図帳、絵地図を活用し、それぞれを関係付けながら指導する。</li> <li>◎校外学習や見学などの体験的活動を重視する。特に地域の人々の生産や販売、災害や事故防止について、見学や調査をしたり、資料を活用したりして調べ、それらに従事している人々の工夫や努力を考えさせる学習を組み立てる。</li> <li>◎地域社会における災害及び事故防止について、関連諸機関の相互の連携体制を理解させる学習を取り入れる。</li> </ul> <p><b>高学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎図・写真・表・グラフ・年表などを取り入れた新聞づくりなどの多様な表現活動を行うことにより児童の思考力の育成を図るとともに、資料集などの資料を用いて社会的な思考・判断の力を養うようにする。また、いくつかの資料を組み合わせ、それらから読み取れることを考える時間を作ったり、それぞれの資料を比べたりしながら、新聞やパンフレット作りなどで親しませる時間を作っていく。</li> <li>◎工業や農業など身近でない内容は、自分自身や自分の生活と関連付けながら、主体的に考えさせる活動を取り入れる。</li> <li>◎歴史的事象について、今の自分たちの生活との違いを見付けたりどう関わっているのか考えたりさせていく。</li> </ul> <p><b>共通して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎国語科との関連を図って、自分の考えを繰り返し書かせたり、発表させたりする練習を授業の中でできる限りさせていく。</li> <li>◎知的好奇心を高め、論理的思考を養うための問題解決的な授業展開を行う。</li> </ul>			

# 算数科 授業改善プラン

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
昨年度の成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どの学年も算数に対しての関心・意欲は高い。</li> <li>ドリル学習など反復練習を行うことにより、基礎基本の定着を図ることができてきている。</li> <li>ペアやグループなどで話し合いの時間を設けることで自分の考えを整理したり深めたりすることができた。</li> <li>低学年は操作活動を多く取り入れることで学習内容の理解につながった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導の展開の仕方についてさらに充実させていく。</li> <li>コースごとに実態に応じた課題を検討し、設定していく</li> </ul>			
分析	どの学年も全体的に関心・意欲が高い。学習課題に対して、既習事項を活用しながら粘り強く取り組めるようになってきている。	学年によって差はあるが、自分の考えを式や図で表したり具体物进行操作したりしながら他者に説明しようという意欲が高まり、説明も上手になってきている。	数と計算の領域では、特に「小数」「わり算」での計算ミスなどによる誤答が見られ、目標値を大きく下回る問題もあった。	図形領域では「量感」の部分が弱い。また、数と計算の領域では、小数・分数の相対的な大きさの理解が低い数値を示している。
課題	引き続きコースごとの実態に合わせた課題を設定し、課題解決することの楽しさや友達と学び合うことのできる楽しさを味わうことができるようにしていく。	既習事項を活用して課題を解決できるよう、見通しをもたせる。自分の考えを説明したり、友達の考えを推測させたりするなど、目的に応じてペアやグループ活動を効果的に取り入れるようにする。	数と計算領域の向上を図るために、ドリル学習等で反復練習を行い、さらに計算力を高めていく必要がある。	図形領域、小数・分数の大小について、具体物进行操作するなどして量感を養うようにする。身に付けた知識・理解が他の単元でも活用していけるようにする。
改善策	<p>◎教員自身が系統性を意識した指導ができるよう、研究・研鑽に努めるようにしている。</p> <p>◎「授業で分かったこと」「友達からの学び」「感想・考え」と視点を絞って学習感想を書かせ、次時への意欲喚起、友達と学ぶことの楽しさや大切さに気付かせていく。</p> <p>◎単元で必要となる既習事項、思考表現力、新単元の先行知識を見取るレディネステストを単元ごとに作成し、児童の実態を把握する。</p> <p>◎レディネステストの結果を基に習熟度別コースを設定し、少人数指導を工夫して行う。個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>◎学習カルテ、算数ステップ学習のチェックシート、ベーシックドリル等をもとに学習の定着状況を把握し、必要に応じて学習カウンセリングを行い、学習の定着を図る。</p> <p>◎児童が見通しをもって取り組むことができるような課題、必要感のある課題をコースごとの実態に応じて設定し、指導計画を作成する。</p> <p>◎既習事項を使って、問題解決していくことを積み重ねる。ペアやグループでの話し合いを行ったり、全体で多様な考えを検討する場面を設定したりすることで、友達の考えを聞いて自分の考えを深めていけるようにする。</p> <p>◎問題解決学習を引き続き行い、筋道を立てて考えたり表現したりする場面を増やし、数学的な考え方を身に付けさせる。また、ペアやグループで考えを検討する場面を増やし、自分の考えを深めていけるようにする。</p> <p>◎数と計算領域は、単元ごとに前学年に立ち戻った練習を行ったりドリル学習等で反復練習を引き続き行ったりし、計算力の定着を図る。</p> <p>◎文章問題では、「わかっていること」「求めること」を明確にする指導を根気強く行っていくようにする。 (低学年)</p> <p>◎具体物や半具体物进行操作したり絵や図に表したりして問題場面を理解しやすくする。</p> <p>◎具体物の操作活動を通して自分の考えを整理したり、説明したりする力を高める。</p> <p>◎足し算や引き算、九九は計算の仕方や方法を児童に考えさせ、説明することを通して思考力を高め、理解を深めていく。</p> <p>◎図形を使ったパズル遊び等を授業に取り入れるなど、体験を通して学びが深まるようにしていく。 (中学年)</p> <p>◎量と測定領域では、具体的な操作等を取り入れて、重さや長さ、かさ、時刻と時間について体験を通して身に付けさせていく。また、具体物や掲示物を活用できるように学習環境を整える。</p> <p>◎図形に親しむ活動を多く取り入れたり、作図や測定等の作業を増やしたりして、理解を確実にする。</p> <p>◎問題を作ったり解き合ったりする活動を取り入れ、さらに理解を深めたり思考力を高めたりする。 (高学年)</p>			

# 理科 授業改善推進プラン

	興味・関心・意欲	科学的思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解
昨年度の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理科に対する興味・関心が高まった。</li> <li>自分の経験や既習事項をもとに予想を立てて実験に取り組む児童が増えた。</li> <li>学習内容が知識として定着してきた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結果から考察し、結論を導き出すことが苦手である。</li> <li>自分の考えを表現するスキル（言葉、図など）が育っていない。</li> <li>実験・観察器具の扱い方が定着していない。</li> </ul>			
分析	4学年共通し、昨年度と比較し、興味・関心・意欲をもって取り組む児童が増えている。	昨年度同様にどの学年も平均的な伸びを示していることから、科学的思考・表現力が身に付いてきている。	第6学年では大きく伸びていた。それに対し4、5年生は低調であった。	4学年共通で昨年度より知識・理解の定着が見られた。今後も引き続き定着が図れるようにしていく。
課題	児童がさらに主体的に問題を設定し、実験・観察を進めることができるようにしていく。	実験や観察したことをもとに、なぜそうなったのかを考え、解決する力を深めさせていく。	実験・観察器具の適切な使い方がまだ理解できていないところがある。実験や観察した結果をグラフや図に表すことが課題である。	実験や観察を通して、用語を確実に理解し、使えるようにしていく。
改善策	<p>(中学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習問題を見いだせるように事象提示の仕方を工夫する。</li> <li>実験や観察時には、その目的や視点を明確にし、児童が「何のために実験・観察するか」をはっきり意識しながら活動できるようにする。これを続けることが結果を考察して結論を導き出すことにつながる。</li> <li>実験や観察の結果を表現できるように引き続き指導する。グラフや図などを使い多様な表現方法を身に付け、高学年の土台作りを行う。そのために、友達のよかった表現のしかたを取り上げて共有し、学級全体で結論を確認するようにする。</li> <li>目的を明確にし、観察結果についてそうなった理由を考えさせ、結果から結論を考察する力をつけさせる。</li> <li>「なぜその器具を使うのか」「なぜその手順で実験・観察するのか」、理由を理解させた上で技能を身に付けられるようにする。主要器具については全員が操作できるよう計画を立てる。</li> </ul> <p>(高学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験や観察をする際には、器具の扱い方を理由とともに理解させ、全員が実際に操作できるよう計画を立てる。</li> <li>実験や観察をした後に、結果を整理し考察するための時間を十分にとり、学級全体でより妥当な考えを導き出せるよう言語活動を充実させる。</li> <li>実験や観察から得られたことを科学的な言葉や概念を使用して説明させる。</li> <li>体験的な活動や繰り返し学習することで、確実な知識へと定着させる。</li> <li>生活の中での理科的な事象について、意識的に話をすることで、理科を身近なものと感じさせるようにする。</li> </ul>			

# 音楽科 授業改善プラン

		歌唱	器楽	音楽づくり	鑑賞
昨年度の成果と課題		<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どの学年も音楽活動全般に意欲的で、生き生きと取り組む姿が見られる。</li> <li>各学年、日頃の学習の成果を音楽朝会で発表することで、音楽を創り上げる喜びや達成感や充実感を味わわせることができた。</li> <li>歌、器楽、音楽づくりの基礎的な表現能力や鑑賞の能力は、少しずつだが定着してきた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>器楽では、技能の習得に個人差がある。継続的な取り組み、個別指導、ペアやグループでの活動を有効に取り入れることで、一人一人の技能の向上を目指す。</li> <li>音楽表現を工夫できる児童は少ない。思いや意図をもって表現したり、楽曲の理解を深めて自分たちの音楽表現に生かしたりする能力を身に付けるようにする。</li> </ul>			
児童の実態・課題	低学年	生き生きと楽しみながら歌っている児童は多いが、曲想を感じ取らずに歌ってしまう児童もいる。	鍵盤ハーモニカの練習に意欲的に取り組んでいるが、タンギングや正しい運指の定着には個人差がある。	意欲的に音遊びやリズム遊びをしているが、リズムの違いや拍の流れを感じる事が苦手な児童もいる。	興味をもって鑑賞しているが、思ったことや感じたことを言葉に表現することが難しい児童もいる。
	中学年	歌うことが好きで、自然な発声で楽しそうに歌う児童が多いが、曲想にふさわしい表現や思いをもって歌える児童は少ない。	リコーダー学習には意欲的に取り組むが、運指、タンギング、息の強さの習得は、個人によって差がある。	拍にのってリズムを叩いたり、リズムや旋律をつくったりする活動に楽しく取り組むことはできるが、発想をもって即興的に表現する経験は十分でない。	曲想やその変化を感じ取れることはできるが、音楽要素とのかかわりや曲の構造と結び付けて聴ける児童は少ない。
	高学年	自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う児童が多いが、地声になる児童もいる。曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う児童は少ない。	合奏には意欲的だが、各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する意識は低い。楽器の特徴を生かして演奏を工夫することができる児童も少なく、譜読力も十分とは言えない。	リズムアンサンブルや和音の音を使った旋律づくりに楽しみながら取り組むことができるが、思いをもって表現に生かしたり、即興的に演奏したりする活動は十分ではない。	曲想やその変化など、楽曲の特徴を感じ取れることはできるが、曲の構造の理解や音楽を形づくっている要素と、想像したことや感じ取ったことを結び付けて聴く活動には個人差がある。
改善策	低学年	範唱や友達の歌声に耳を傾け、情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして思いをもって歌うように指導する。	個人の習得状況を把握し、個別指導やグループ学習を取り入れることで全体の習熟度を高めていく。	リズムの違いやまとまり、拍の流れを体全体で感じ取っていけるよう、リズム遊び、拍の感覚を養う活動を継続して行っていく。	体の動きを取り入れて楽曲の気分を感じ取らせる。音楽の様子や感じを表す言葉の例を提示して感じ取ったことを言葉で表現することに慣れさせていく。
	中学年	歌詞から思いを想像したり、曲想を感じ取ったりすることに加え、音楽を形づくっている要素を感じ取ることで、表現に生かせるようにしていく。	継続的な取り組みや個別指導、グループ学習を効果的に行う。範奏や友達の演奏を聴いて、よりよい音色に気付かせ演奏に生かすようにする。	発想をもって打楽器で直観的に選択したり判断したりして表現するために、楽器の材質の違いによって音の特徴や雰囲気異なることに気付かせる。幅広く、また継続的に音楽づくりに取り組むようにする。	曲を特徴づけている音楽の要素や構造に気付かせるために、鑑賞時の視点を明確にしたり、体の動きを伴ったりする活動を取り入れる。
	高学年	発声練習を継続して行い、豊かな歌声を目指す。歌詞の内容や曲想を生かしたり、音楽を形づくっている要素を感じ取ったりすることで、表現の工夫に生かし、思いや意図をもって歌うように働きかける。	全体の響きを感じ、互いの音をよく聴き合いながら一つの音楽を創り上げる意識をもたせる。日常的に階名唱をしたり、フラッシュカードを利用したりして、譜読力を高める。	これまでの音楽表現を振り返らせ、音楽づくりに生かす。発想や自分なりの思いをもち、まとまりのある音楽をつくる活動や、それらを聴き合いよりよい表現を目指す活動など、幅広く取り組むようにする。	旋律を歌ったり、学習シート、板書を工夫したりして、楽曲構造や音楽要素の理解を進める。その上で自分なりの想像や感じたことを言葉で表現し、そこに根拠をもたせることで要素との結びつきに気付かせる。また、友達の意見から新たな感じ方や言葉の選び方を学べるようにする。

## 図工科 授業改善プラン

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年も関心をもって意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・様々な材料や表現方法を経験し、自分なりの表現方法を模索しながら選び取っている。</li> <li>・学習に必要な持ち物の忘れ物が多い。</li> </ul>
児童の実態・課題	<p>&lt;低学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体感的に形や色などをとらえながら表現活動をしている。</li> <li>・基礎基本の道具や材料を安全に使えるようになってきた。</li> <li>・制作の時間配分や片づけが手際よくできていない。</li> </ul> <p>&lt;中学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に活動する児童が多い。</li> <li>・友達の作品の良いところを見つけたり、話したりすることを楽しんでいる。</li> <li>・片づけや掃除を、班ごとに分担して行うことが定着してきた。</li> </ul> <p>&lt;高学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に活動する児童が多い。</li> <li>・様々な材料や表現方法から、自分なりの表現を選んでいく活動の時も自信をもって取り組むことができている。</li> <li>・友達の作品の良いところを見つけたり、良さを認め合ったりする様子が見られる。美術作品の鑑賞も意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・片づけや掃除を、班ごとに分担して行うことが定着してきた。</li> </ul>
改善策	<p>&lt;低学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の道具や材料の扱い方をその都度安全に使えるよう指導していく。</li> <li>・児童の生活や身近な素材をモチーフにして、のびのびと作ったり描いたりさせ、個別指導にあたっていく。</li> <li>・指先を使う細かな活動や、体全身を使ったダイナミックな活動の両方を経験させる。</li> <li>・何を制作したら良いのか迷う児童に、個別に適切な助言をする。</li> <li>・準備、片づけを自分たちでできるようにしていく。</li> </ul> <p>&lt;中学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい材料や表現方法を経験していく。</li> <li>・初めて使う道具や工具の正しい扱い方、安全指導を徹底指導して、実際にそれらの道具を使って表現できるようにしていく。</li> <li>・造形遊びなど、友だちと関わる活動も多く取り入れていく。</li> <li>・お互いの作品を鑑賞させ、友達の作品の良さを認め合える時間を設定する。</li> <li>・授業の準備・片づけを班の友達と協力してできるようにする。</li> <li>・児童の動線に配慮して机・道具の配置を変更して、安全・快適に授業が行えるようにする。</li> </ul> <p>&lt;高学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な表現方法から自分なりに表したい表現方法を選びとっていけるようにする。試行錯誤しながら活動できるように、様々な材料を準備し十分な時間を設定する。</li> <li>・国内、海外の美術作品の鑑賞活動を通し、様々な表現の良さを感じられるようにする。</li> <li>・新しい道具や工具を使う機会を増やし、新しい技法や描画材をたくさん経験させる。</li> <li>・お互いの作品を鑑賞させ、友達の作品の良さを認め合える時間を設定する。</li> <li>・授業の準備・片づけを班の友達と協力してできるようにする。</li> <li>・児童の動線に配慮して机・道具の配置を変更して、安全・快適に授業が行えるようにする。</li> </ul>



## 家庭科 授業改善プラン

	関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
昨年度の成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人一人が、学習のめあてを明確にもって活動し意欲的に学習に取り組むようになった。</li> <li>○調理の学習では安全に気をつけてグループで協力して学習に取り組むことができた。</li> <li>○裁縫の学習では基本的な技能を生かして自分の生活に使える手縫いやミシン縫いの作品を作り上げ達成感をもつことができた。</li> <li>○実験や観察、グループでの検討機会を設けることで、自らの課題としてとらえることができるようになった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技能に関しては、個人差が大きい。</li> <li>○ICT 機器が不十分なので、実技を効果的に示すことができない。</li> </ul>			
児童の実態・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の興味や関心は高い。</li> <li>○5年生は早く裁縫道具を使いたい、調理実習を試みたいという希望が強い。実習では意欲をもって取り組んでいる。</li> <li>○6年生は5年生の時に身につけた知識や技能を使って学習している。裁縫に関しては、苦手意識がある児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題に対し、自分なりの考えをもっており、考えを深めたり、工夫しようとしたりしている。</li> <li>○考えをもとに、どのように実生活へ生かすかを考える際に、実態とかけ離れてしまうことがある。</li> <li>○グループでの問題解決学習では、意見を出し合う際に個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の生活体験の有無によって個人差が見られる。調理では、自分で簡単な朝食や夕食を作ることができる児童もいるが、包丁を全く持ったことがない児童もいる。裁縫では家庭で針や糸ミシンを使う児童は少ない。</li> <li>○作業時間は、個人差が大きい。</li> <li>○用具の後片付けは、課題が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調理用具・火・裁縫用具・ミシン等の扱い方や名称については、理解しているが、実践する際に戸惑うことがある。</li> <li>○環境に配慮した使い方や生活の仕方などについては、理解が不十分などところがある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年生では基礎的な学習内容を多く取り入れ、6年生では5年生で学んだことを生かし、発展的に取り上げるよう指導の工夫をする。</li> <li>○展覧会に向けて、計画を立て、これまでの技能を生かしながら、意欲的に取り組めるよう工夫する。</li> <li>○苦手意識が固定しないよう、自分なりの目標をもたせ振り返らせていく。完成度ではなく、身に付けたことを実生活へどのように生かすかが大切であることを児童に伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○創意工夫ができるように、基本的な知識、技能を身に付ける。</li> <li>○考えをもとに、児童自身が実生活に生かした経験を共有し合う。そこから、気付いたことを全体で話し合う機会を設ける。</li> <li>○栄養のバランスのとれた1食分の献立を立て調理実習をするなど、実生活に密着した具体的な活動を通して、すぐに生かせるようにしていく。</li> <li>○グループでの話し合いや作品の見せ合いでは、互いの良いところを伝え合い、自分の考えや作品に自信をもたせる。伝え合うことで、自らの創意工夫に生かせるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中で実習等体験活動を多く取り入れ技能を身に付けさせる。身に付けた技能をもとに、生活に生かし、そこから気付いたことを振り返らせ、さらに今後の技能に生かせるようにしていく。</li> <li>○グループ活動等で教え合い学び合いを行う。</li> <li>○基本的な技能の指示はICT機器の使用・写真の提示などで視覚化したり、作業を細分化して手順を示したりして分かりやすくする。後片付けの手順も視覚化して示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○用具の名前や使い方は、実習を通して親しませ、使い慣れていくようにする。また、具体的な場面で、選択した用具を使用するとなぜ効果的なのかを考えさせていく。</li> <li>○どの単元でも環境について取り扱い、児童が意識できるようにしていく。</li> </ul>

## 生活科 授業改善プラン

<p>昨年度の成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多摩川土手という身近な環境を生かして、繰り返し体験活動を行うことにより、四季の自然の変化や生き物の生長に自然と気付くことができた。</li> <li>○下学年（2年生は1年生、1年生は幼保）との関わりをもつことで、自主的に活動できる児童が増えてきた。</li> <li>○活動の動機やめあてをはっきりさせ、活動後の振り返りをしっかりと行う活動計画を立てることで、友だちと協力し合って、自分の考えをもって行動できるようになった。</li> <li>○身近な自然を利用したり身近にあるものを使ったり（アサガオのつるやドングリ）して、遊ぶことや遊ぶものを作る中で、自分の気付きや想いを表現できるようになってきた。</li> <li>○多摩川に特化した図鑑を用いたことで、多摩川の植物を効率的に調べることができた。</li> <li>○多摩川の自然で興味をもったものを、四季を通じて観察したり調べたりして、変化に気付くことができた。</li> <li>○多摩川土手で昆虫や植物に興味をもつ児童もいるが、遊びで終わってしまう児童もいた。</li> <li>○日々の生活の中で、自然とかかわったり、植物を育てたりする経験を継続的に行っていくことで、その変化に気付くことができた。</li> <li>○1年と2年の交流を1学期と3学期は定期的に行ったが、2学期の交流がほとんどなかった。仲をより深めるために、学期ごとに交流の機会を増やしていく必要がある。</li> </ul>
<p>児童の実態・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多摩川土手での活動を継続的に行うことで、興味や活動を深めていっている。</li> <li>○伝え合い交流する活動では、相手のよいところや活動の中で気付いたことを友達に伝えることができるが、まだ自分の想いを伝えることが難しい児童もいる。</li> <li>○多摩川での活動に重点をおいたカリキュラムのため、他の単元において自分自身の成長を振り返る時間が十分にとれていないので、自分自身の成長の気付きが薄くなってしまった。</li> <li>○自分たちで計画を決めたり、動いたりする場面では、意欲的な児童に頼ってしまうことがある。</li> </ul>
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎年間計画を見直し、多摩川の活動とその他の単元とのバランスを考え、どちらも充実させていく。</li> <li>◎多摩川に特化した図鑑を計画的に増やしていき、グループに一冊使用できるようにしていく。</li> <li>◎伝え合い、交流する活動をできるだけ設定し、自分の思いを伝えられるようにする。</li> <li>◎見通しの立ちやすい計画的な活動の組み立てや、体験活動中の支援の充実によって、充実感や達成感を味わわせ、自分に自信をもたせるように支援していく。</li> <li>◎活動のまとめ方を工夫し、2年生が1年生に教えてあげるような発表会の機会を作っていく。</li> <li>◎グループごとに上手く協力できる場所もあれば、意欲的な児童に頼ってしまうグループもあるので、各グループごとの人数を少なくする。そして、一人一人の責任を意識させる。</li> </ul>

## 体育科 授業改善プラン

<p>昨年度の成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校庭で活動する児童は、芝生の上で転ぶことを恐れず、のびのびと運動することができている。その一方で、芝生による制限があり運動の種類が限られてしまっている。（ボール投げ遊び・鉄棒）→それによって、学年相応の体力がついていない。</li> <li>○授業内容やチーム編成、ルールを工夫したことで、自分のめあてを設定して取り組める児童や、友達にアドバイスや励ましの声掛けをする児童が増えた。</li> <li>○タブレットの遅延再生を使い自分や友達の動きをよく見ることで、正しいフォームに向けてより具体的にポイントを意識して練習することができた。</li> </ul>
<p>児童の実態・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都の体力、運動能力調査では、多くの学年が、長座体前屈で東京都の平均を下回っていた。しかし、立ち幅跳びは、多くの学年が東京都の平均を上回っていた。</li> <li>○ 全体的な傾向としては、1・2・5・6年年は、半数以上の種目が東京都の平均を下回っている。</li> <li>○ 興味・関心・意欲、技能共に、好んで運動する児童とそうでない児童の差が大きくなっている。興味のある運動には熱心に取り組むが、興味のない運動については、運動をやりたがらない児童もいる。</li> <li>○ 生活経験の違いから運動技能の差が大きい。全体的に器械運動が苦手である。</li> <li>○ 俊敏性と持久力が未だに低い傾向にあるが、授業の前に持久走を行う習慣ができてきた。</li> <li>○ 得意な児童は休み時間もボール遊びに取り組むが、苦手な児童はボールを使った運動に取り組もうとしないため、ボール操作の技能に差がみられる。</li> </ul>
<p>改善策</p>	<p>&lt;低学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 多様な動きを経験させたり、基本的な運動やゲームの中で友だちの良い動きをまねしたりして、基本的な運動につながる技能や動きを身に付けさせていく。</li> <li>◎ 授業の中で、準備運動、体ほぐし体操などで柔軟性も高めていくことでしなやかな体をつくる。</li> </ul> <p>&lt;中学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ いろいろな動きを楽しみ、多様な動きを身に付けさせるために、サーキットトレーニングに取り組む。また握力等の筋力を高めるために、鉄棒や雲梯またジャングルジムやろくぼく等を取り入れるようにする。</li> <li>◎ 学習カードや掲示物を活用して、技能のポイントを確認したり活動を振り返ったりできるようにする。</li> <li>◎ 柔軟性を高めるために、学習の中に柔軟運動を意識して取り入れる。</li> <li>◎ ペア学習やグループ学習を通して、互いを励まし合ったり認め合ったりできるようにする。運動の中で、良い動きや正しい動きに気付くことができるようにする。</li> </ul> <p>&lt;高学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 正しいフォームや動きのポイントを押さえた効果的な声かけや学習カードの工夫で、一つずつステップを踏んで技ができるようにする。</li> <li>◎ みんなが楽しく運動できるようルールを工夫しつつ、お互いに励まし合いながらゲームを進めていけるよう、声かけを行う。</li> <li>◎ 準備運動で、柔軟運動や主運動につながる動きを多く取り入れるようにする。</li> </ul> <p>&lt;全学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 年間を通して、授業の初めに体力を高める運動を取り入れることで、持久力の向上を図る。（1学期：体力テスト 2学期：持久走 3学期：なわとび）</li> <li>○ 中休みに、屋上を開放し一輪車や竹馬など多様な運動をする機会を作る。</li> <li>◎ 体育の授業に、柔軟運動や遊具を使用した運動を取り入れ、体力の向上を図る。</li> <li>◎ 1校1取組である持久走において、一定の条件をクリアした児童を表彰するなどして持久走に対する意欲を高める。</li> <li>◎ 運動能力の高くない児童も活躍できるようなルールを考え、全員が自分にあつためあてをもち、楽しめるような活動にする。</li> </ul>